

## 1. 公会計委員会担当常務理事に就任して 公会計はおもしろい



公認会計士  
宮内 忍

はじめに

日本公認会計士協会の常務理事として本年7月から公会計委員会を担当することになりました。公会計委員会は、文字通り公の会計に属すると考えられる国の会計、地方自治体の会計、特殊法人・独立行政法人の会計及びそれぞれに付随する監査について検討することになっています。

また、地方自治体における外部監査人は、その9割方を公認会計士が占めており、監査委員についても公認会計士が任せられるケースが増えてきているものと想像されています。さらに、企業会計では経験したことのない領域である行政評価が導入され、これにも我々公認会計士が多く登用されているところであります。

### 拡がり行く公会計分野

このように、拡がりゆく領域ではありますが、我が国の公会計に関する取り組みは世界的に見るとかなり遅れているとの評価もやむを得ない状況であろうかと思われま。そのような中で、本年7月に樫谷前担当常務理事を構成委員長とする公会計概念フレームワークプロジェクトチームが発足し、本年12月を目処に検討を行っています。

ご承知のとおり、我が国では企業会計においても概念フレームワークはなかなか結論を得るに至っていない状況であり、未だ研究期間の短い公会計の領域においてこのような短期間で結論を得ることは至難の業であります、

いつまでも「公会計にも企業会計導入」といった抽象的・問答無用型の議論から、地に足のついた議論に転換するにはちょうど良い機会であろうとも思えます。

### 公会計はおもしろい

そこで問題になっている事柄についてご紹介させていただき、公会計のおもしろさについてもご理解いただける端緒になればと思います。

公会計分野における重要な会計上の概念として税金があります。企業会計では税金は費用を構成するか利益処分かといった議論がかつてはありましたが、国の方からするとこれが収益に該当するのといった議論となります。

もともと、収益は企業会計上の目的概念を構成するもので、企業の事業活動はすべからくこの収益を獲得するための活動と理解でき、費用はこの目的概念たる収益を獲得するために要した価値犠牲額として理解されることになります。

しかし、国の税金は国が行う目的概念であろうかという問題があります。すなわち、国は税金を稼ぐために行政サービスを実施しているのかという問題です。税金は行政サービスの対価として収入するものであるとする考え方が現在の大勢を占めているようですが、果たして税金に対価性があるのかというと、やはり、そうは言い切れないものとみえ、「結果として純資産の増加の原因となる資産の増加または負債の減少」というような規定ぶりとなっています。

しかし、この定義は単に形式的に定義しただけであることは明らかであり、これをもって本質的定義とはいえないものであると私は考えるものであります。そこで、新たに旋風をもって登場するのが、「国からの脱退の許されない国民は、いわば合名会社の無限責任社員に相当し、税金はこの無限責任社員の行う出資である。」とする考え方です。

一見「えっ」と思われる考え方ですが、これは主権在民の考え方に合致し、なおかつ、会計主体論における出資者持分を中心とする会計構造を構築する場合にスムーズ

な理論展開を行えるという便宜性も有しています。

ただし、この考え方も「税金の納付が、出資という頗る自発性の高い行為から生ずるものではなく、義務として行われている。」現実を見ると、その現実妥当性について疑問を抱くことになります。

一見、「税金は収入であって、ほかに何かがあるの。」と思っていた私は、頭をガンと殴られたような衝撃を受けたのでした。「公会計は、おもしろい。」と感じた一瞬であり、「やっかい」でもあり、「難しい」ものであります。これを機会に是非公会計に興味をお持ちいただければ幸いです。

## 2. 会長に就任して 「絆」によせて

「絆」という機関誌名は、私に、さまざまなことを思い起こさせます。

1958年(昭和33年)4月に、中央大学に入学したことが縁で、現在、中央大学公認会計士会という学員会支部の会長(正式には支部長であって、学員会会長は、学員会の役職として正式に選ばれています)に支部総会にて選任されたのですから、縁とは、不思議なものです。

中央大学に入学した動機も縁です。高等学校時代のクラブ活動において、中央大学の辞達学会に籍を置く方が指導にいられていました。商業高等学校ですので、在学生の多くは、就職希望です。私は家業を継ぐことを宿命とされていましたが、当時の家業の状況からして、このまま家業を継ぐことに疑問を感じていました。クラブ活動の中で、指導にいられた大学生から受けた物事に処しての考え方や物の見方の自分との差を感じ、「これではいけない!」という気持ちを大きくし、大学への進学を決意しました。

大学に入ってから生活にあっても、縁があって、公認会計士という職業の存在を知ることになりました。

当時、中央大学経理研究所という機関があって、社会人や学生向けの「会計教育」を実施していました。このことは入学して1年後に知ったのですが、ここでは日本で著



木下 徳 明

名な会計学の諸先生方が講師として会計教育の諸講座を担当されていました。

その中の一人である井上達雄先生に出会うことになったのも、公認会計士という職業の存在を知ってからです。

学部2年生の春、駿河台校舎の中庭で、新入学生向けの学研連やサークルの勧誘のための出店が所狭しと並んでいました。

その中に、商学会、白門会、星友会、そして会計学研究会という立看板が目に入りました。いずれも、学生の自主的な勉強を目的とした団体でした。その中で、白門会と会計学研究会は、公認会計士第二次試験の合格を目指す受験団体といわれる組織でしたが、白門会は柳仙育英センターという組織に属していましたし、司法試験の合格を目指す受験団体と統合されていたと記憶しております。白門会は既に歴史もあり、合格実績もあって、商学部や経済学部の学生で公認会計士を目指す学生には名門受験団体としての地位を確立しておりました。星友会は二部の学生を対象としていて実績をもっていました。

商学会は、商学部で唯一の学研連所属の学生の研究団体で名声高い存在でした。

皆様もご存知の稲垣富士男教授、白鳥栄一教授(故人)(いずれも公認会計士の資格を持ち、白鳥先生にあって

はアーサーアンダーセンの日本事務所(英和監査法人)の代表であり、国際会計士連盟の日本代表として活躍されました)、さらに、国際会計士連盟の現会長藤沼重起先生も商学会で勉強され、在学中に第二次試験に合格された方々です。

私は、当時実績が全くない学内唯一の受験団体である会計学研究会に入会したのです。その会の会長が井上達雄先生であり、指導教授に天野恭徳先生(故人)や崎田直次先生という気鋭の先生方が名を連ねておられました。後に、浅野栄一教授にも指導教授となっておられました。

私は、この会の運営を2年生の後半引き継いで、天野・崎田そして浅野の3人の先生方にゼミを担当していただき、本格的な受験団体としての学生を中心とした活動を開始しました。私が3年生のとき、川島正夫先生が卒業の年次で合格されました。私の同期生では宮崎和郎君が3年次で合格しました。全く実績のなかった会計学研究会でしたが、入会した年次で4年生が2名合格し、以後順調に在大学生での合格者を輩出することになり、白門会との合格者数を競う団体にまで成長するのに約7年

の歳月を要しました。

私は、会計学研究会の活動を通じて、白門会、商学会に所属する同じ目標をもつ同期生や先輩、後輩の方々と交流を持つことができました。

この交流を一層親密なものとして築くことができたのは、1960年に経理研究所内に組織された「CPA 特別研究生」制度があります。川島正夫前会長は、第一期生の合格者の一人です。

CPA 特別研究生制度が創設されたことがその後数年間の公認会計士第二次試験合格者数、大学別第一位の地位を維持することができた大きな要因といえますし、その間に創設された松柏会、志雲会の活躍が大いに貢献しました。

私にとって、さらに絆をつくった縁には、ゼミナール制度があります。井上達雄先生のゼミに入ったことは、その後40年に及び人間関係を築くことができました。川北博先生や山本秀夫先生をはじめ、増田浩二、籾本道男両先輩、渡部裕亘教授と多くの先輩、同期生、そして後輩との絆、PCA 会長川島正夫氏との密接な利害関係など、中央大学がとりもつ縁に感謝するのみです。

### 3. 我ら白銀の士

白銀の士達さむらいがいる。

その名を「中央大学公認会計士会スキー同好会」という。

この同好会は、川北博先生、増田浩二先生を発起人として今から3年前に発足し、現在に至っているが、この誌面をお借りして今までの活動状況を簡単に紹介し、更に多くの士達さむらいの参加を期待したい。

【1998年5月 山形県 月山】

月山は発足会ともいうべきで、山形の地元斉藤俊勝先生のお世話で増田先生を中心に宮下怜先生、川村芳則先生の面々で、春スキーを楽しんだ。

【1999年2月 長野県 八方尾根】

第1回の定例会であるが、長野オリンピック後1年という記念すべき日で、種々の行事が開催された。我々もそのメイン行事である女子の滑降コース(オリンピックコースで

### スキー同好会

すず)に挑戦し、全員が滑降認定証をちょうだいした。

【2000年2月 北海道 ニセコ】

ご承知のとおり雪質で、雪煙を上げてアスピリンスノーを満喫した。

【2001年2月 山形県 蔵王】

樹氷の中を滑り、そしてかの「横倉の壁」(その勾配や、まさに壁)を全員が滑り降りた(決して「滑り落ちた」



ではない)

士達かたがひとはいうものの、寄る年波を考慮して、安全と楽しいスキーを旨とし、またこの会ではゲレンデのワインパーティが恒例となっている。ちなみに今年のワインは「ボルドーグランベロー(赤)」であった(写真参照)。

現在のメンバーは次のとおりであるが、簡単にそのプロフィールをご紹介します(敬称略)。

名誉会長 川北 博  
会 長 増田 浩二  
幹 事 川村 芳則  
幹 事 齊藤 俊勝  
星野 紘紀(以下年齢順)  
宮下 怜 吉田 京一  
本橋 信隆

増田:日本(世界というべきか)各地のスキー場に通じており、往年の「凝り様」が推察される。研究熱心で、ただいま新しいスキー技術に挑戦中。

川村:当会の幹事として企画、手配の一切を仕切ってくれる。同好会の中でトップ技術を有する。

齊藤:山形は酒田在住で、1シーズン20回はスキー場に足を運ぶ。ボーイスカウトの指導者でもあり、山が荒れた時の決断、統率は抜群。

星野:雪国は越後長岡の産。物心ついた時にはスキーを履いていたが、未だその域を出ず、我流丸出しのスキー。

宮下:札幌勤務中に始めた由。今年はカービングスキーを新調し、やる気満々。奥さんに「おやすみ」の挨拶をしないと眠れない人。

吉田:熱心さ一番。鮎釣りの単独行に慣れているからか、必ず2~3日前に現地入りするか、スケジュールを延ばして居残る人。

本橋:10年振りにスキー再開。その技量はどうしてどうして。背広にカバンで現地入り、帰りはそのまま仕事場直行という真面目人間。

このように和気藹々、温泉につかり、酒を酌み交わし、そしてスキー技術を論じ、夜の更けるのを忘れる。

残念ながら、川北名誉会長が体調調整中で未だその勇姿に接する機会を得ていないが、ご一緒できる日の近いことを会員一同待ち望んでいる。

2002年は定例会を奥志賀焼額、そして夏には初の海外遠征ニュージーランドスキーを計画している。

誌面をお借りして、広く同好の士を募ります。

(文責 星野紘紀)

## 4. 公認会計士試験合格体験記 公認会計士試験振り返って

私が公認会計士を目指そうと思ったのは、大学2年生のときでした。当時は公認会計士の仕事についてほとんど知ることもなく、司法試験と並ぶ難関試験で、合格すれば社会的地位と安定した高収入が保証されるといったイメージだけで受験を決めました。

商学部に入學したこともあり、私の周りにも公認会計士の試験を目指す友人が多く、そうした友人たちと専門学校に通ういわゆるダブルスクールの生活が始まりました。

二次試験の勉強は苦しいものでした。簿記、原価計算といった計算科目だけでも膨大な量なのに、さらに5科目も理論科目があります。また、運の悪いことに私の通って

### 原 田 泰 人

いた専門学校の周りにはパチンコ屋が多く、息抜きのつもりで行っていたパチンコ屋にいる時間の方がいつの間にか長くなってしまいました。そのため、受験勉強は長引いてしまい、両親には負担をかけてしまったなどと反省しています。それでも何とか平成7年に第二次試験に合格しました。

私が就職活動した頃は求人が少なく、就職できなかった方が結構いましたが、私は運良く監査法人に入所できました。入社するとすぐ研修があり、そのあとすぐに監査の現場に連れていかれました。二次試験でかなり勉強してきたので仕事は楽勝かと思っていたところ、主任からは

提出した調査よりも分厚いレビューメモが帰ってきました。二次試験合格で勉強はもう終わりだと思っていた私にはショックでした。合格することはゴールではなく単にスタートラインに立てただけだったのです。私の自信ははやくも崩れ去り、仕事が終わると本屋に行き、調べ物をする日々が続きました。実務補習所の講義も勉強になりました。

監査の仕事にも慣れてきた頃、今度は三次試験の受験がやってきました。三次試験はやれば受かると先輩方から言われていたので、簡単に合格できるものだと思っていました。しかし、実際に受験してみて実感したのは、「やれば受かる」ということの意味を取り違えていたことでした。三次試験は合格率が60%程度であり、一見高く思えますが、受験するのは全員二次試験合格者であり母集団のレベルが高く、油断するとすぐ差をつけられてしまいます。そしてこの頃は、麻雀にはまっていたため自習室の隣にある雀荘に足繁く通っていました。こうして1回目の受験は失

敗に終わりました。

最近では会計制度の改正がめまぐるしく、ここ数年に公表された会計基準、実務指針に目を通すだけでもかなりの時間を費やします。また、二次試験と違い、三次試験は仕事をしながら勉強することになるので勉強時間がなかなかとりにくく、効率的に勉強する必要があります。特に、試験が11月前半のため、9月中間決算の繁忙期と重なってしまい、時間をとるのが大変でした。

2回目の試験で公認会計士の第三次試験に合格した今、この資格を目指してよかったなと感じています。当初思い描いていた合格後の生活とは多少違いましたが、公認会計士の仕事は、プロフェッショナルとして責任を負い、判断して行動でき、自分の知識や経験を高めるとすぐに自分の仕事につながり、大変やりがいの職業だと思います。

これからも今までの経験を生かし、社会に貢献できる公認会計士になりたいと思います。

## 受験生活を振り返って

今回2度目の挑戦で公認会計士第二次試験に合格し、在学中での合格という目標を達成することができ、本当に嬉しく思っています。

私は、経理研究所で勉強を始め、当初から勉強に対する抵抗はなくなかなか順調なスタートをきっていたように思います。しかし、一緒に勉強を始めた友達がやめていき、また授業時間も増え、早朝答練が始まるにつれて、体面や精神面での苦痛を感じるようになりました。

私は大学まで片道2時間強かかるので、早朝答練に出るには朝5時に起き、夕方からの経理研究所の授業を終えてすぐに帰宅しても10時半を過ぎるという毎日でした。そのような中で成績も思うように伸びず、他の人たちが授業の後にも勉強していることに対してあせりを感じていました。しばらくこのような生活が続くと、体力的に疲れ、精神的にもゆとりを持ってなくなり、1度目の受験の頃には勉強を続ける気力さえも失ってしまいました。

しかし、特にすることもなく、やりたいこともなく、自分の今の状況を見つめ直した時にもう一度挑戦しようと決心することができました。私は当初、何か大きなことをやり

### 商学部商学科4年

### 伊東 恭子

遂げたことがなくいつも自分に自信を持てずにいたので、専門分野を持ち、それを活かせる職業に就きたいという気持ちから会計士になろうと思ったのです。勉強から離れてみて改めてその気持ちを思い出し、再び勉強を始めました。

今振り返ると、1度目の受験の頃は、家が遠いことを言い訳にしていたような気もします。2度目の受験生活は自宅から近い専門学校を中心にしていたので、通学時間の負担は減りましたが、疲れたら休み、時には息抜きに友達と遊びに出掛けることでゆとりを持つことができ、逆に時間を有効に使い無駄のない勉強ができたと思います。

辛いこともたくさんありましたが、「合格」は思っていた以上の大きな喜びと大きな自信を与えてくれました。そして、これまで支えてくださった諸先生方、家族、友達に対し、心から感謝しています。この感謝の気持ちを立派な公認会計士として成長していくことで示していきたいと思っています。本当にありがとうございました。



## 受験を終えて

平成10年3月商学部会計学科卒

神山智宏

### 1. 志望動機

私はこの度、6度目の挑戦でようやく公認会計士第二次試験に合格することが出来ました。

私が公認会計士という職業を知ったのは、高校生の時でした。私は、高校時代、商業系の高校に通っており、そこで簿記会計に興味を持ち、大学に進学したら公認会計士試験に是非チャレンジしてみたいと思ったのです。「自分の好きなことを仕事に出来て、そのフィールドで活躍できたら、なんて素晴らしいことだろう。」と思い、公認会計士第二次試験の受験を決意しました。

### 2. 受験生活で辛かったこと

ところが実際に受験勉強を始めてみると、合格までの道程はとてもしんどく困難なものでした。二次試験は、受験科目が7教科という非常にボリュームのある内容であり、しかも合格率8パーセントという競争率の超難関試験です。受験時代を振り返って、私にとって一番苦しかったのは、受験し続けても合格できるかどうか分からないというリスクと精神的な負担の中で、勉強をしていかなければならないという点でした。特に大学を卒業してからは、大学時代の多くの友人が、就職後様々な方面で活躍しているとの話を耳にして、大変な精神的プレッシャーを感じていました。

### 3. 受験生活で学んだこと

もともと、6年間という長い受験生活の中で学んだことも多くありました。会計学に関する知識はもちろんの事、逆

境にくじけない精神力や忍耐力を培うことができ、また何かひとつの事をやり遂げる事の難しさ、そしてやり遂げた後の達成感を知ることが出来ました。受験勉強で会得したこれらの経験は、これから仕事をしていく過程で何らかの壁に突き当たった時、必ずや自分を支えてくれることと思います。

### 4. これから受験するみなさんへ

確かに、公認会計士試験の合格への道程は簡単なものではありません。しかし、会計ビックバンともいわれる会計基準の大変革に伴い、公認会計士の業務領域及び役割期待は今後ますます拡大していくものと思われます。このような潮流の中で、公認会計士という仕事の魅力は一層膨らんでいくのではないのでしょうか。一生に一度だけの大学生活ですから、そこで何をするかはみなさんの自由です。私は、その一度きりの大学生活を公認会計士受験という大きなハードルに挑戦して本当に良かったと思っています。公認会計士という仕事に興味を持っている方は是非トライしてみたいと願います。

### 5. おわりに

最後になりますが、今回私が試験に合格できたのは決して私一人の力だけではありませんでした。長期にわたる受験生活を暖かく見守ってくれた家族、ゼミの先生、一緒に勉強し合った受験仲間等、多くの方々がこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

## 平成13年度事業計画（平成13年4月から平成14年3月まで）

- |                                    |               |            |
|------------------------------------|---------------|------------|
| 1. 公認会計士第二次試験合格者への記念品贈呈            | 4. ゴルフ等懇親行事   | 平成13年10月   |
| 2. 中央大学講演会講師派遣<br>経理研究所主催<br>商学部主催 | 5. 会報の発行      | 平成13年12月   |
| 3. 総会及び懇親会                         | 6. 会員名簿の改訂版発行 | 平成13年12月   |
|                                    | 7. 研修会及び新年会   | 平成14年1月    |
|                                    |               | 平成13年4月16日 |

なお、平成13年4月より平成15年3月までの役員は以下のとおりです。  
会員の皆様の絶大なるご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

会 長 木下 徳明  
幹 事 長 中根堅次郎  
副幹事長 遠藤 忠宏 熊坂 博幸  
伊原 美好 谷古宇久美子  
清水 至 後藤 徳彌(会計担当)  
後藤 徳彌 (会計担当)  
柏壽 周弘 三宅 博人  
都甲 和幸 滝崎 章夫  
大西 英男 瀧澤 晋  
会計幹事 荻野 八郎 高瀬 正行

## 平成12年度収支決算及び平成13年度収支予算 (単位：円)

I. 収入の部	平成12年度決算額	平成13年度予算額
1. 会 費 収 入	1,544,120	1,800,000
2. 総会懇親会収入	245,000	400,000
3. 講演会等行事収入	225,000	300,000
4. 同 好 会 収 入	0	0
5. 受 取 利 息	584	2,000
収 入 合 計	2,014,704	2,502,000
II. 支出の部		
1. 総会関係支出	649,679	400,000
2. 講演会等行事支出	635,682	600,000
3. 会報関係支出	172,345	250,000
4. 学生奨学関係支出	509,670	600,000
5. 対外関係支出	71,871	200,000
6. 事 務 費 用	3,161	100,000
7. 雑 支 出	890	50,000
支 出 合 計	2,043,298	2,200,000
当期収支差額	△28,594	302,000
前期繰越金	970,396	941,802
次期繰越金	941,802	1,243,802

会費振込のご協力ありがとうございました。本年度もよろしく願います。

以上

## 平成13年公認会計士第二次試験 出身大学別合格者数

1位 (1) 慶應義塾大学	155名	7位 (6) 明治大学	42名
2 (2) 早稲田大学	134	8 (8) 京都大学	29
3 (4) 東京大学	68	9 (9) 神戸大学	24
4 (3) 中央大学	59	10 (10) 関西学院大学	22
5 (6) 一橋大学	47		
6 (5) 同志社大学	43		

( )は前年順位、日本公認会計士協会の調査による

## 平成13年公認会計士第二次試験合格者

経理研究所関係 (42名)

氏名	学部・学科	在・卒	ゼミ
原 寛	商・会計	3年在学	渡部
相山 嘉洋	商・会計	3年在学	岸
西尾 拓也	商・会計	3年在学	木島
三村 陽子	商・会計	4年在学	—
村松 通子	法・政治	4年在学	野口
松田 透	商・会計	4年在学	富塚
八島 隆志	経・経済	4年在学	—
立花 真一	商・会計	4年在学	北村
伊東 恭子	商・会計	4年在学	北村
鶴田 直樹	商・会計	4年在学	石崎
浜崎 堅一	商・会計	4年在学	北村
澤田 浩史	商・会計	4年在学	富塚
伊藤 雅仁	商・会計	01.3卒	中瀬
鴻巣 淳	商・会計	01.3卒	—
山崎 賢治	商・会計	01.3卒	石崎
菊地 紀宏	経・経済	01.3卒	—
岸井 幸生	商・会計	01.3卒	石川
佐藤 洋平	商・会計	01.3卒	奥本
木下 陽介	商・会計	01.3卒	中瀬
山本 俊介	経・経済	01.3卒	—
大塚 健一	商・会計	00.3卒	石川
原 宏美	商・会計	00.3卒	矢部
田村 年一	商・経営	00.3卒	酒井
小池 将史	商・会計	00.3卒	龜山
笠舞 麻子	商・会計	99.3卒	北村
岩若 伸治	経・産経	99.3卒	川島
上原 佑介	商・会計	99.3卒	木下
片山 行央	商・会計	99.3卒	佐藤
石川 雅之	商・会計	99.3卒	北村
松谷 大	商・会計	98.3卒	松田
酒井 俊輔	商・会計	98.3卒	松田
小澤 公一	商・会計	98.3卒	大津

氏名	学部・学科	在・卒	ゼミ
三宅 智樹	経・経済	98.3卒	小口
濱本 美帆	商・会計	97.3卒	北村
後藤 岳郎	法・法律	97.3卒	—
穴戸 徹	商・会計	97.3卒	木島
森島 拓也	商・経営	97.3卒	木下
戸田 芳彦	商・商貿	96.3卒	石崎
藤島 尚子	商・会計	96.3卒	白鳥
大原 隆寛	商・会計	96.3卒	—
伊丹 亮資	経・経済	96.3卒	—
今関 奈央子	商・会計	96.3卒	松田

経理研究所関係以外 (17名)

氏名	学部・学科	在・卒	ゼミ
熊倉 智子	商・金融	4年在学	—
小宮 正俊	経・国経	01.3卒	—
澤田 昌輝	経・産経	00.3卒	高田橋
矢代 達彦	商・経営	00.3卒	—
河野 森	経・国経	00.3卒	—
海藤 千津子	法・国企	00.3卒	中西
渡邊 丈師	理・数学	99.3卒	—
神山 智宏	商・会計	98.3卒	北村
川浦 元宣	経・産経	98.3卒	—
田辺 大輔	法・国企	97.3卒	—
中島 泰祐	総・政策	97.3卒	—
山本 英嗣	商・会計	97.3卒	田中
水野 宏之	経・経済	97.3卒	—
春日 井健介	法・法律	97.3卒	—
内田 栄紀	商・会計	97.3卒	矢部
中山 伊知郎	法・法律	96.3卒	菅原
稲垣 吉登	理・応化	96.3卒	—

## 編集後記

後藤 徳 彌

中央大学公認会計士会報「絆」の第8号をお送りします。忙しい中ご寄稿いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。

最近「構造改革」が各方面でいわれていますが、国、地方自治体及び特殊法人等の「構造改革」のためには公会計の転換・充実が必要不可欠でないかと考えます。

そこで、今回日本公認会計士協会の「公会計委員会担当常務理事」に就任された宮内先生に、会員の皆様は公会計に興味をもつていただくように「公会計はおもしろい」というテーマで寄稿していただきました。

今回は、木下会長、中根幹事長(留任)の新執行部による初めての会報のため会長挨拶及び事業計画等を記載しました。特に木下会長には中央大学における公認会計士第二次試験受験団体の変遷等大変興味深い記事を書いていただきましたのでぜひ一読願います。

又木下会長の発案で第三次試験合格者に対してなんらかの「絆」を保とうと考え、初めて今回の第三次試験合格者の原田先生に合格体験談を寄稿していただきました。今後一層「絆」を深める行事を企画したいと考えておりますので、ご期待ください。

来年も会員の皆様今年同様一層活躍されることを期待します。

中央大学公認会計士会報 No.8

平成13年12月1日発行

発行人 中央大学公認会計士会会長

木下 徳 明

発行所 〒162-8473 新宿区市ヶ谷木村町42-8

中央大学経理研究所気付